北海タイムス
平成6年（1994年）4月5日（火曜日）

旭川 21世紀企業

鈴木産業

珪藻土から新建材開発

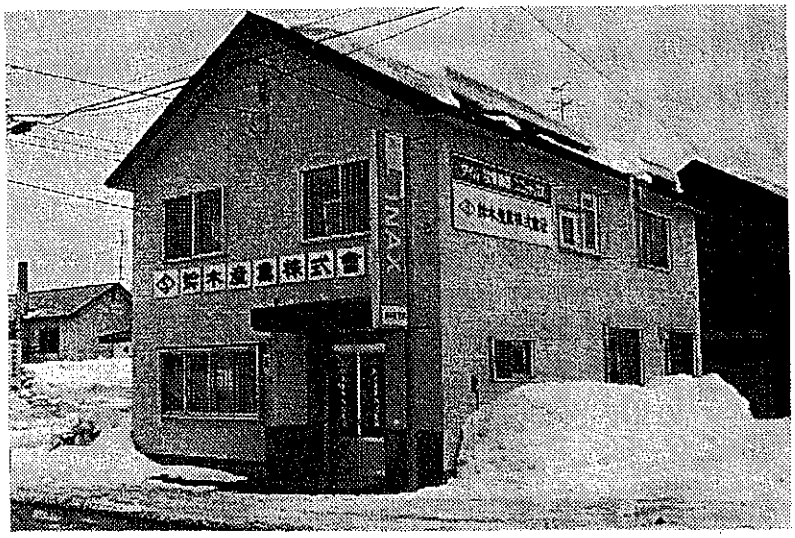
研究がされていなかった珪藻土から建築用タイルの開発に成功した。

販売の鈴木陶器工場を創業。昭和23年に鈴木産業に法人改組し、土器、陶管の製造販売のほか一般建材品の卸販売、タイル工事施工の業務を開始した。昭和62年に鈴木社長が稚内で実施した窯業原料の地質調査から、珪藻土を発見。その後、2回にわたり天北地方で地質調査を実施するなど、これまで有効利用のための研究がされていなかった珪藻土から建築用タイルの開発に成功した。

鈴木徳雄社長

道内で産出する珪（けい）藻土から、空気中の水分の吸排出機能が優れた"呼吸するセラミックス"を道立工業試験場、道立地下資源調査所と共同開発。北国住宅の課題だった結露、カビ対策に向けた新建材として建築業界から注目を浴びているほか、未利用の天然資源を有用物資に変える有効手段として地場産業の発展に期待が掛かっている。

大正2年、土器類製造



鈴木産業の本社外観

珪藻土は熱水、圧密など長年にわたる地質的変化を受けてできる鉱物。原石は直径20―100オングストローム（1オングストロームは1ミリの1千分の1の長さ）の無数の穴が開いていて、空気中の水蒸気を吸収、排出する調湿性に最も適している。道内では稚内地方から留萌地方にかけて大量に産出する。

これまでの研究で、調湿性は一般の住宅建材として使われている杉の木と比べ約15倍にも上ることが判明した。さらに、吸着、ろ過性、抗菌性、腐食防止など多様な特性を持ち合わせていることから研究開発を進める。そのため、今年9月にも豊富町が所有する建物を借り受け、生産と研究開発を兼ねた施設を設けて量産体制に入る。

すでにナショナル住宅産業、ケミホルフなどと商品化に向けてテストを繰り返しているが、鈴木社長は『国内企業と製品開発し、新たな販売網を拡大していきたい』と積極的展開を図っている。

企業データ

本社所在地・旭川市神楽6ノ11。資本金3500万円。従業員23人。